

幸せになるために

校長 稲葉 守朗

校長室で担任の先生を待っていた転入生のAさんと雑談をしていた時のことです。Aさんから「校長先生は、何で校長先生になったんですか」と聞かれました。私は、管理職選考試験を受けるきっかけとなった先輩教員との出会いについて話をしました。そして、読書が趣味と話していたAさんに、卒業式で話した原稿を手渡しました。Aさんは、一字一字をしっかりと読みしめるようにして読んでいました。その姿を見ていて、うれしさとともに、身の引き締まる思いがしました。別れ際に、「うちの学園のテーマは、『幸せになるために』なんです。私が教師、そして校長になった理由は、『みんなに幸せになってほしいから』かな。」と話しました。Aさんは、微笑み、うなずいていました。

4月号では、中学校の卒業式の式辞を紹介しました。今回は、興本小学校の卒業式で「幸せになるためには」をテーマとして話した「3人のレンガ職人」について紹介いたします。

世界中を旅している青年がいました。多くの人が行き交う、にぎやかな町を歩いていました。ふと見ると、レンガ職人が険しい顔をしてレンガを積んでいました。青年は心配して職人に声をかけました。青年：「何だかつらそうですね」職人A：「親方に命令され、来る日も来る日も、一日中こうしてレンガを積んでいるんだ。首や腰も痛くなるし、疲れるだけだよ」と言って、職人はため息をつきました。青年：「毎日、きつい仕事をしているんですね。かわいそうに。どうぞ、お体を大切にしてください。」と言葉をかけ、歩き出しました。しばらく歩いていると、別の町に着きました。この町にも、一生懸命レンガを積んでいる職人がいました。青年は、先ほどのレンガ職人を思い出し、いたわりの言葉をかけました。青年：「大変そうですね」職人B：「たしかに大変だけど、何てことはないよ。」職人は、積み上げられたレンガの壁を見て微笑みました。職人B：「この仕事のおかげで、食べ物にも困らず、家族を養うことができるんだ。仕事があるだけでもありがたいよ。」青年：「あなたは、家族のためにがんばっているんですね。どうかお元気で」とあいさつし、また歩き出しました。さらに歩いていると、大きな広場に出ました。また、別の職人が楽しそうにレンガを積んでいました。青年：「ここで何をつくっているのですか」職人C：「俺は今、仲間と一緒に大聖堂をつくっているんだ。歴史に残る偉大な大聖堂をね」青年：「それは大変ですね」職人C：「いや、大変だなんてとんでもない。大聖堂ができれば多くの人々が祝福を受け、苦しみや悲しみを払うことができるんだ。そんな仕事に就けるなんて、俺は幸せ者だよ」と誇らしげに話しました。青年：「あなたたちは、やりがいのある仕事をしているんですね。人々のために、偉大な大聖堂をつくってください。」と言葉をかけ、旅を続けました。私は、自分自身の中に、3人のレンガ職人がいるように思いました。自分の仕事に誇りをもって働いている職人のように、何事にも夢や希望をもって取り組めたら幸せですね。（終）

4月のスタート時には、複数の教職員が自宅療養のため出勤できない状況となり、ご心配をおかけしました。新学期が始まる大切な時期に、担任不在の学級もありましたが、児童・生徒は、落ち着いて学校生活を送ってくれました。大型連休後は、運動会の練習が本格的に始まります。今年度も、東西別実施となりますが、保護者に参観していただく形式で計画しています。また、宿泊行事も2泊3日での実施となります。引き続き、健康管理へのご協力をお願いいたします。